

(別紙様式)

# 令和3年度学校自己評価システムシート (県立芸術総合高等学校)

(A3判横)

目指す学校像	学芸を共に高め合い、芸術文化を担う人材を育成する高校
--------	----------------------------

重点目標	1 芸術的表現力と共通教科の学力向上を目指す意力の育成 2 芸術文化を担う人材としての人間性と社会性の獲得 3 芸術系進学重視型専門高校としての期待に応える進路実績の確保 4 芸術文化の発信による地域社会の活力づくりの推進
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	6名

学校自己評価					年度評価(2月1日現在)		
年度目標					年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<b>現状</b> ・第一線で活躍する外部講師や関係機関等と連携し、高度な芸術教育と生徒一人一人の個性と能力を最大限に引き出すための教育活動を展開している。 <b>課題</b> ・芸術専門科目と共通教科目のいずれも意欲的に取り組める生徒の育成が必要である。 ・生徒の学習活動の改善を引き続き進めるため、先進的な取組等を実行し、情報共有する必要がある。 ・新教育課程実施に向けた評価の在り方を固める必要がある。	新学習指導要領が目指す資質・能力の獲得に向けた授業の工夫・改善  自学自習の意欲を高める取組の推進	①生徒の「主体的・対話的で深い学び」を深化させた授業を実践する。 ②教員間で授業見学や研究協議等を実践する。 ③各教科・科目の観点別評価の方法を定め、共通理解を図る。	①協働的な学びを通じた生徒の変容が確認できたか。 ②新学習指導要領に基づいた授業の工夫と改善することができたか。 ③各教科・科目の観点別評価方法を定めることができたか。	①②新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、通常授業時やリモート学習時においても授業実践の工夫に取り組んだ。アンケート調査では、生徒の94%が主体的に取り組んでいると回答した。 ③観点別評価については、教務部内で内規や評価の観点を協議・完成し、校内で定めることができた。また、総合的な探究の時間及び特別活動については企画委員会で検討した。専門学科では、各専門授業における観点別評価の方法を協議し、方向性や方法を定めることができた。	A	・観点別評価については、次年度本格実施となり、教育活動を展開しながら運用面での調整を行い、必要に応じて随時改善を検討したい。 ・例えば朝自習でタブレットを活用するなど、自学自習をより一層促進できる取組を研究したい。
2	<b>現状</b> ・多くの生徒・保護者が学校に満足しており、充実した学校生活を送っている。 ・文化祭や体育祭等の学校行事や各学科の教育活動において、多くの生徒が主体的に判断し、行動している。 <b>課題</b> ・多くの生徒が満足している傾向を維持するための方策を検討する必要がある。 ・表現活動の充実にあたり、生徒の心のケアを含め生徒指導の共通理解を図る必要がある。 ・新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえながら、4学科の交流や合同作品の作成、地域との交流を進める必要がある。	芸術文化を担う人材としての意識向上	①「芸術文化を担う人材」を軸とした授業や学活動、部活動を実践する。 ②全教職員が心のケアを含めた指導内容を共通理解し、十分な情報共有をした生徒指導を行う。 ③学科間の情報共有をより進めるとともに、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえながら、4学科連携した教育活動を行う。	①芸術文化を担う人材像のイメージが学校外で共有され、生徒の行動の変化があったか。 ②心のケアを含めた生徒指導を通して生徒の学校生活への意識の変化が見られたか。 ③新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、4学科連携した教育活動を行うことができたか。	①所沢市民文化センター・まちづくりセンター・所沢市・所沢駅との連携事業など、地域での活動を積極的に展開し、本校の芸術文化を担う人材像を学校外に発信することができた。 ②長期に渡るコロナ禍の中、様々な心の悩み、課題を抱えた生徒がおり、教育相談委員およびスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、外部機関との連携を図り改善に努めた。 ③教務部を中心に各学科の意見を取り入れながら調整し、新型コロナウイルス感染防止対策として時差・短縮、分散登校を行い、創造的な活動ができるよう努めた。また、年次会を定例で実施して生徒の情報共有を行い、4学科の状況を共有しながら教育活動を展開した。	A	・定例の年次会は他クラス・他学科の生徒や活動を把握する上で有効であり、情報共有が徹底できたため、次年度以降も引き続き継続したい。
3	<b>現状</b> ・東京芸術大学をはじめとする芸術系大学への進学希望者が大多数であり、芸術系の私大を中心に、約8割の生徒が現役で進学している。 ・大学入試改革を踏まえた生徒の多様な進路希望に対応するための環境が整ってきている。 <b>課題</b> ・新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う大学入試等の状況を引き続き情報収集し、組織的な進路指導に繋げていく必要がある。 ・1年次から長期的な視野で進路指導に当たることが重要である。	緊急事態への対応も踏まえた教職員による進路指導の推進	①学科・年次が連携して全職員による進路指導を行う。 ②芸術系大学への進学のための実技試験対策や受験科目の補習・補講等を充実させる。 ③「高校生のための学びの基礎診断」を活用した進路指導を行う。 ④卒業生・外部を活用した進路指導を実践する。	①補習や課題配信、自学自習等の取組を進路指導として連携させることができたか。 ②生徒のニーズにあった補習・補講等ができたか。 ③「高校生のための学びの基礎診断」を効果的に活用できたか。 ④卒業生・外部を活用した進路指導等が組織として実施できたか。	①②夏期補習は、生徒が希望の科目を受講できるようにあらかじめ枠を決めて調整し、20講座を開講した。また、各年次定期考査の素点振り返りを実施し、授業の定着度の確認を行った。 ②学科単位で希望者を対象とした実技試験対策説明会を実施するなど、生徒のニーズに合わせた補習・補講を展開した。 ③学びの基礎診断テスト前の事前学習や、弱点克服のワークを生徒に実施し、基礎学力の定着を図った。また、教員向け研修会も実施し、各教科の授業の工夫・改善につながった。 ④各学科、専門分野において「分野別進路説明会」や卒業生から在校生へ進路についてのアドバイスをもらう「進路体験談会」などを行い、早い段階から上級学校への意識付けをさせ、学習意欲を更に向上させるように努めた。	A	・オンライン入試やオンライン保護者会が主流となりつつあり、更なる対応が必要となる。 ・時代の変化やコロナ禍に対応した進路指導の在り方について、引き続き検討し、情報を共有しながら生徒への指導に努めたい。
4	<b>現状</b> ・アウトリーチ活動は定着し、学校の魅力が地域社会に浸透している。 ・誠意をもって生徒募集に取り組んでおり、一度来校した生徒がリピーターとなり、志願者希望に繋がっている。 <b>課題</b> ・ここ数年の生徒募集状況や今後の中学生数の減少を踏まえ、本校の生徒募集について学校全体で検討する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止に対応した生徒募集を引き続き進める必要がある。 ・各学科での工夫した活動について相互理解を図るとともに、広報活動を引き続き積極的に進める必要がある。	緊急事態への対応も踏まえた生徒募集及び広報活動の実施	①昨年度の校外活動や生徒募集方法を踏まえ、感染対策をしながら生徒の魅力を最大限に活用した説明会や体験入学を実施する。 ②各学科の生徒募集のデータ分析を引き続き進め、今後の生徒募集の在り方を再検討する。 ③学科・年次を超えた全職員による生徒募集に取り組む。 ④生徒の活動を学校内外へ積極的に発信する。	①生徒の魅力を説明会や体験入学で中学生に伝えることができたか。 ②各学科のデータ分析をさらに深化させ、学科を超えた学校全体での検討が進められたか。 ③学科・年次を超えて、全職員で生徒募集に取り組むことができたか。 ④ホームページや広報活動を通じて生徒の活動を発信できたか。	①④新しい日常社会での生徒募集活動の在り方に対応し、主にホームページ上での広報を軸に、各学科の行事を積極的に記事として掲載して、本校の魅力や中学生や保護者に伝え効果的な広報活動を展開することができた。 ②生徒募集企画室や未来構想検討チームを中心に今後の生徒募集に向けたデータ分析を進めた。 ③生徒募集企画室を中心に全職員で生徒募集に取り組む、2/1時点で本校への志願者は増加傾向であるが、定員確保に向けて更なる検討が必要である。	B	・今後とも、社会情勢に対応した広報活動を視野に入れ、本校知名度・認知度を高めていくための手段や方法を検討し、生徒募集定員の確保を実現したい。 ・学校行事や学科公演など、一部は公開できたものの、多くは関係者のみとなってしまった。次年度に向けて積極的にアウトリーチできる機会を創出する手立てを考えていきたい。

学校関係者評価	実施日 令和4年3月18日
学校関係者からの意見・要望・評価等	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での精力的な取組に感謝している。特に卒業制作展にむけて効率的な指導があったと感じる。</li> <li>・生徒・保護者ともに満足度も高く、達成度も高く安心した。教員間の連携、協議の賜物と思う。</li> <li>・芸術表現力の指導と評価の関係についても検討してほしい。本来、表現力の指導は、対話的で主体的であるのだが、まれに指導者のエビゴネン(独創性のない模倣者)をつくるような指導に陥っている場合が散見される。その後の成長を阻むこともあるので、配慮してほしい。</li> <li>・現状を継続するべきだと考える。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己表現だけでなく、一流のものに触れる機会や好奇心を育ててほしい。</li> <li>・コロナ禍でコミュニケーションが不足している時だからこそ、芸術文化の力で生きている喜びや幸せを実感させてほしい。</li> <li>・コロナ禍で、これまで以上に心のケアが必要な状況にあり、適切な対応がなされることを強く願う一方、表現活動はそれ自身が心のケアを果たす場合があり、専門科目に取り組む中でケアがなされるイメージを生徒や保護者、教員が相互共有することが大切である。</li> <li>・個人の創造性を尊重するためにも、どの程度までオリジナルであると主張して良い作品なのかの線引きをしてもらいたい。</li> <li>・1つ1つのイベントでより協力することで、よりよい発表ができるようになると思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学先は無限にあること、進学後の選択肢も幅広いのだと伝わりやすい。将来像を早い段階から意識できる指導をお願いしたい。</li> <li>・卒業生との交流機会を多く作ってもらい、良い刺激を受けてもらいたい。</li> <li>・希望が多いとはいえ大学進学に偏重した進路指導は再度検討いただきたい。中でも現役合格にこだわること慎重にとらえてほしい。</li> <li>・徹底的なサポートと積極的に行われる進路学習、また何よりも親身になって相談に乗ってくれた先生方には感謝してもしきれない。進路実績の点においては非常に良いと感じている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭や体育祭のパフォーマンスなど、広く公開される日が来てほしい。</li> <li>・アウトリーチ活動は地域に浸透している。所沢地域だけでなく、入間、狭山、飯能など範囲を広げていただければと思う。</li> <li>・「地域社会の活力作り」と「志願者確保」の広報活動は、本来は別の取組として位置付けた方がよい。人口減少時代に合った適切な志願者を算出し、県全体の取組として定員を検討する必要があるように感じる。</li> <li>・学校付近の通学ルートだけでも通いやすく整備してもらいたい。</li> <li>・コロナ禍での活動、芸術の高校のアピールの難しさは理解できるが、学校自体の存在をもっとアピールできる場があるとよいと思う。</li> </ul>